

1. プログラム名称
ふじのくに総合診療後期研修プログラム
2. 専攻医定員
原則1学年あたり2名とするが、増員を希望する場合はプログラム申請書 A の別紙5に理由と共に定員希望数を記載すること。
3. プログラムの期間
(3) 年間
4. 概要
<p>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</p> <p>静岡は温暖な気候と豊かな自然・歴史的背景に恵まれ、住民には穏やかな性格の人々が多く、医療を行う上での人間関係も築きやすいです。一方で東西に広い県域には伊豆半島、南アルプス隣接地域など中山間地も多く、総合診療医(家庭医)として皆さんに活躍して頂けるフィールドは数多くあります。当プログラムではへき地に該当する西伊豆健育会病院、浜松市国保佐久間病院、または医療資源に乏しい地域に所在する伊豆今井浜病院(賀茂医療圏、人口10万人あたり医師数145.0)、伊豆赤十字病院(駿東田方医療圏、同210.4)、トータルファミリーケア北西医院(富士医療圏、同138.6)のいずれか1つを選択して総合診療Iとして1年間の研修を行い、地域医療における総合診療医の役割を存分に学んでいただきます(医師数は平成26年度調査、全国平均は233.6人)。</p> <p>また、地理的に関東や中京、近畿まで十分に日帰り圏内であり、静岡空港を利用すれば北海道、九州、沖縄に至るまで全国どこにでも移動しやすく、学会などの出張にも非常に便利です。</p>
<p>B. プログラムの理念、全体的な研修目標</p> <p>3年間を通じて、週4日の本研修と週1日の兼任研修を行います。本研修で総合診療I以外をローテートしている間は、並行研修で臓器別によらない総合外来を週1回行うことを原則とします(専攻医の到達目標や経験症例その他の事情により、領域別研修に充てることも考慮可能です)。総合診療Iローテート中は、兼任研修では希望する領域別研修を行います。</p> <p>総合診療IIは静岡県立総合病院、伊東市民病院、または森町病院で、臓器別によらない初診外来・病棟・救急業務のほか、院内他科・他職種との連携、組織マネジメント、研修医・学生などの教育、研究などについても学びます。総合診療Iは地域の小病院または診療所で、年間を通じて行っていただきます。これにより同じ患者・家族に継続的に関わり、スタッフを含めた信頼関係も築けると思います。モデルでは2年目となっていますが、個別の事情によっては1または3年目に行うことも可能です。</p>
<p>C. 研修期間を通じて行われる勉強会・カンファレンス等の教育機会</p> <p>(例) 定期的なTV会議システムによるカンファレンス・経験省察研修録(ポートフォリオ)勉強会や作成指導等</p> <p>診療技術: 日本プライマリ・ケア連合学会秋季セミナー(年1回)</p> <p>ポートフォリオ関連: ポートフォリオ発表会(年2回)、日本プライマリ・ケア連合学会中部地区ポートフォリオ発表会(年1回)</p> <p>研究活動: 日本プライマリ・ケア連合学会学術集会、静岡地域医学研究会(各年1回)</p> <p>この他、静岡県立総合病院では基礎臨床講座、医療安全管理研修会、感染管理研修会等を実施しており、同院在籍中は(可能であれば他院在籍中も)これに参加する。</p>
<p>D. ローテーションのスケジュールと期間</p> <p>(4年以上のプログラムの場合は、枠を増やして4年目以降のローテーションについても記載すること)</p> <p>(静岡県立総合病院ローテート例)</p>

1年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	静岡県立総合病院											
	領域	内科(総診Ⅱ)			救急			内科		その他		小児科	
2年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	佐久間病院, 北西医院, 西伊豆健育会病院, 伊豆今井浜病院, 伊豆赤十字病院のいずれか											
	領域	総診Ⅰ											
3年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	静岡県立総合病院											
	領域	内科		内科		その他		その他		内科(総診Ⅱ)			

(伊東市民病院, または静岡県立総合病院+公立森町病院ローテート例)

1年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	伊東市民病院または静岡県立総合病院											
	領域	内科						小児科			救急		
2年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	佐久間病院, 北西医院, 西伊豆健育会病院, 伊豆今井浜病院, 伊豆赤十字病院のいずれか											
	領域	総診Ⅰ											
3年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	伊東市民病院または公立森町病院						伊東市民病院または静岡県立総合病院					
	領域	内科(総診Ⅱ)						その他		その他		その他	

特記事項 (総診Ⅱと内科は同時研修とし(6カ月)、同期間のその他領域別研修を可能とする。ただし専攻医が総診Ⅱと内科を別々に研修することを希望する等の事情があるときはこの限りではない。)

※ 代表的な例を書いてください。募集定員全員のローテーション表は不要です。

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (12)カ月				総合診療専門研修Ⅱ (6)カ月			
領域別 研修	内科 (12)カ月		小児科 (3)カ月		救急科 (3)カ月		その他 (6)カ月	

※ローテーションする施設によって研修期間が異なる場合(例えば、総合診療専門研修ⅠがA診療所なら6ヶ月、B診療所なら9ヶ月など)、これらの表はコピー&ペーストして複数作成してください。

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

※整備基準にある「平成30年度からの3年間に専門研修が開始されるプログラムについては、専門研修施設群の構成についての例外を日本専門医機構において諸事情を考慮して認めることがある。」との規定を踏まえ、3年間の研修プログラムにおいても、最大6か月間の選択研修が認められます。ただし、その場合でも、各研修科の研修期間の要件を満たすことが必要です。

※「総診Ⅰ」と「総診Ⅱ」を同時に研修することはできません。また、原則として異なる医療機関での研修を実施する必要があります。

※原則として、都道府県の定めるへき地に専門研修基幹施設が所在するプログラム、あるいは研修期間中に2年以上のへき地での研修を必須にしているプログラムにおいて、ブロック制で実施できない合理的な理由がある場合に限り、小児科・救急科の研修をカリキュラム制で実施することが認められます。該当する場合は、特記事項に詳細を記入してください。

5. 準備が必要な研修項目

地域での健康増進活動

実施予定場所 (佐久間病院, 北西医院, 西伊豆健育会病院, 伊豆今井浜病院, 伊豆赤十字病院のいずれか)

実施予定の活動 (地区踏査、小地域福祉活動への参加、外来・病棟診療を元に地域の健康課題を見出す。健康課題の解決法を文献などから検討する。住民にわかりやすいプレゼンテーション法を検討する。地域の集まりを利用して実施する)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(総合診療Ⅰのローテーション中に実施。)

教育 (学生、研修医、専門職に対するもの)

実施予定場所 (静岡県立総合病院, 伊東市民病院, 公立森町病院のいずれか)

実施予定の活動 (初期研修医に対する on the job training および、研修医向け勉強会の運営又は助言)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(総合診療Ⅱローテーション中が中心。佐久間病院等の場所・ローテーション期間でも可能であれば実施。)

研究

実施予定場所 (静岡県立総合病院, 伊東市民病院, 公立森町病院のいずれか)

実施予定の活動 (症例報告または臨床研究。専攻医の希望や経験に応じて指導医と相談。)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(総合診療Ⅱローテーション中が中心。内科等他のローテーション中も機会があれば実施可。)

6. 専攻医の評価方法 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))

※形成的評価と総括的评价を研修終了認定の方法も含めて具体的に記入してください。

形成的評価

- 研修手帳の記録及び定期的な指導医との振り返りセッションを定期的実施する (頻度: 月1回)
- 経験省察研修録 (ポートフォリオ) 作成の支援を通じた指導を行う (頻度: 年4回 (3か月に1回))
- 作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) の発表会を行う (頻度: 年2回 参加者の範囲: 全専攻医, 総合診療指導医)
- 実際の業務に基づいた評価 (Workplace-based assessment) を定期的実施する (頻度: 月1回又はそれ以上)
- 多職種による360度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する
- 年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施する
- ローテート研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期的に支援するメンタリングシステムを構築する
- メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証する

総括的评价

- 総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱの研修終了時には、研修手帳に専攻医が記載した経験目標に対する自己評価の確認と到達度に対する評価を総合診療専門研修指導医が実施する。
- 内科ローテート研修において、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム (Web版研修手帳) による登録と評価を行う。研修終了時には病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価結果を内科指導医が確認し、総合診療プログラムの統括責任者に報告する。
- 3ヶ月の小児科の研修終了時には、小児科の研修内容に関連した評価を小児科の指導医が実施する

- 3ヶ月の救急科の研修終了時には、救急科の研修内容に関連した評価を救急科の指導医が実施する
- 以下の基準でプログラム統括責任者はプログラム全体の修了評価を実施する
 - (1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修ⅠおよびⅡ各6ヶ月以上・合計18ヶ月以上、内科研修12ヶ月以上、小児科研修3ヶ月以上、救急科研修3ヶ月以上を行っており、それぞれの指導医から修了に足る評価が得られている
 - (2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した経験省察研修録（ポートフォリオ）を通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達している
 - (3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達している
 なお、研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による360度評価（コミュニケーション、チームワーク、公益に資する職業規範）の結果も重視する

研修修了認定の方法（総括的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー）

修了判定会議のメンバー

■ 研修プログラム管理委員会と同一

□ その他（ ）

修了判定会議の時期（2月または3月に、数人以上の総合診療指導医から成る修了評価委員によりプログラム修了評価を実施する（内容はポートフォリオ評価および、その内容に関するインタビューを予定）。同修了判定の結果および研修手帳、形成的評価等を基準に、翌年度の5月にプログラム管理委員会で最終承認する。）

7. プログラムの質の向上・維持の方法

研修プログラム管理委員会

委員会の開催場所（静岡県立総合病院）

委員会の開催時期（年3回（5月、10月、1月を想定））

専攻医からの個々の指導医に対する評価

評価の時期（各領域ローテート修了時および年度末、必要に応じ随時）

評価の頻度（年1～5回程度）

評価結果の利用法（プログラム管理者、施設・部署責任者の協議のうえで、指導医へフィードバック）

研修プログラムに対する評価

評価の時期（年度末（研修修了時を含む）、必要に応じ随時）

評価の頻度（年1回、必要に応じ随時）

評価結果の利用法（プログラム管理委員会にて協議、改善方法の検討）

8. 専門研修施設群

基幹施設の施設要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））

□ 総合診療専門研修Ⅰの施設基準を満たしている。

■ 総合診療専門研修Ⅱの施設基準を満たしている。

□ 大学病院で研修全体の統括組織としての役割を果たしている、あるいは適切な病院群を形成している施設である。

研修施設群全体の要件。

■ 総合診療専門研修Ⅰとして、のべ外来患者数 400名以上／月、のべ訪問診療件数 20件以上／月である。

■ 総合診療専門研修Ⅱとして、のべ外来患者数 200名／月以上、入院患者総数 20名以上／月である。

■ 小児科研修として、のべ外来患者数 400名以上／月である。

■ 救急科研修として、救急による搬送等の件数が1000件以上／年である。

地域医療・地域連携への対応

■ へき地・離島、被災地、医療資源の乏しい地域での研修が1年以上である。

具体的に記載：

施設名（西伊豆健育会病院） 市町村名（西伊豆町） 研修科目（総診Ⅰ） 研修期間（12か月）

施設名（浜松市国保佐久間病院） 市町村名（浜松市） 研修科目（総診Ⅰ） 研修期間（12か月）

施設名（伊豆今井浜病院） 市町村名（河津町） 研修科目（総診Ⅰ） 研修期間（12か月）

施設名（伊豆赤十字病院） 市町村名（伊豆市） 研修科目（総診Ⅰ） 研修期間（12か月）

施設名（トータルファミリーケア北西医院） 市町村名（富士市） 研修科目（総診Ⅰ） 研修期間（12か月）

□ 基幹施設がへき地※に所在している。

□ へき地※での研修期間が2年以上である。

具体的に記載：

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ） 月

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ） 月

施設名 () 市町村名 () 研修科目 () 研修期間 (か月) ※過疎地域自立推進特別措置法に定める過疎地域。詳細は総務省ホームページ参照 http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm http://www.soumu.go.jp/main_content/000456268.pdf

9. 基幹施設			
研修施設名	静岡県立総合病院		
所在地	住所 〒420-8527 静岡市葵区北安東4丁目27番1号 電話 054-247-6111 FAX 054-247-6140 E-mail nobuyuki-maki@i.shizuoka-pho.jp		
プログラム統括責任者氏名	牧 信行	指導医登録番号	
プログラム統括責任者 部署・役職	救急科 医長		
事務担当者氏名	大下 将		
連絡担当者連絡先	住所 〒420-8527 静岡市葵区北安東4丁目27番1号 電話 054-247-6111 FAX 054-247-6140 E-mail sougou-soumu@shizuoka-pho.jp		
基幹施設のカテゴリー	<input type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅰの施設 <input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅱの施設 <input type="checkbox"/> 大学病院		
基幹施設の所在地	二次医療圏名 (静岡) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ		
施設要件 (各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように)) ■総合診療以外の18基本診療領域の基幹施設機能を、本プログラム統括責任者が所属する診療科あるいは部門では担当していない (プログラム基幹施設の役割を診療科・部門が兼任していない) ■本プログラム以外の総合診療専門研修プログラムを本基幹施設は運営していない ■プログラム統括責任者が常勤で勤務し、コーディネーターとしての役目を十分果たせるように時間的・経済的な配慮が十分なされている ■専門研修施設群内での研修情報等の共有が円滑に行われる環境 (例えばTV会議システム等) が整備されている ■プログラム運営を支援する事務の体制が整備されている ■研修に必要な図書や雑誌、インターネット環境が整備されている ※研修用の図書冊数 (1,000 冊) ※研修用の雑誌冊数 (約4,000冊《パッケージ型電子ジャーナル含む》) ※専攻医が利用できる文献検索や二次資料の名称 (UptoDate, JDreamⅢ, PubMed, Scopus 等) ※インターネット環境 ■LAN接続のある端末 <input type="checkbox"/> ワイヤレス ■自施設で臨床研究を実施したり、大学等の研究機関と連携した研究ネットワークに加わったりするなど研究活動が活発に行われている 具体例 (JCOG《日本臨床腫瘍研究グループ》、CSPOR《がん患者のQALY向上のための社会心理的介入を含む治療法開発支援事業》等)			

10. 連携施設	
連携施設名	伊東市民病院
所在地	住所 〒414-0055 静岡県伊東市岡196-1 電話 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631 E-mail arayo@jazz.interq.or.jp
連携施設担当者氏名	荒川 洋一
連携施設担当者 部署・役職	臨床研修センター センター長 (アレルギー科 部長)
事務担当者氏名	齋藤 貴章

連絡担当者連絡先	住所 〒414-0055 静岡県伊東市岡196-1 電話 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631 E-mail takaakis@jadecom.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（熱海伊東） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	伊豆今井浜病院
所在地	住所 〒415-0503 静岡県賀茂郡河津町見高178 電話 0558-34-1123 FAX 0558-34-1166 E-mail kodak@r5.dion.ne.jp
連携施設担当者氏名	小田 和弘
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	総務課長 須藤 洋平
連絡担当者連絡先	住所 〒415-0503 静岡県賀茂郡河津町見高178 電話 0558-34-1123 FAX 0558-34-1166 E-mail izuimaihama@jadecom.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（賀茂） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	伊豆赤十字病院
所在地	住所 〒410-2413 静岡県伊豆市小立野100 電話 0558-72-2148 FAX 0558-72-6564 E-mail rc-izu@ninus.ocn.ne.jp
連携施設担当者氏名	志賀 清悟
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	内田 菊見
連絡担当者連絡先	住所 〒410-2413 静岡県伊豆市小立野100 電話 0558-72-2148 FAX 0558-72-6564 E-mail rc-izu@ninus.ocn.ne.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（駿東田方） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	西伊豆健育会病院
所在地	住所 〒410-3514 静岡市賀茂郡西伊豆町仁科138-2 電話 0558-52-2366 FAX 0558-52-2369 E-mail info@nishiizu.gr.jp
連携施設担当者氏名	仲田 和正
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	朝賀 瑞乃
連絡担当者連絡先	住所 〒410-3514 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科138-2

	電話 0558-52-2366 FAX 0558-52-2369 E-mail m-asaka@nishiizu.gr.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（賀茂） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	トータルファミリーケア北西医院
所在地	住所 〒416-0906 静岡県富士市本市場 148-1 電話 0545-61-0119 FAX 0545-61-0306 E-mail frisco@wonder.ocn.ne.jp
連携施設担当者氏名	北西史直
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	北西史直
連絡担当者連絡先	住所 〒416-0906 静岡県富士市本市場 148-1 電話 0545-61-0119 FAX 0545-61-0306 E-mail frisco@wonder.ocn.ne.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（富士） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	静岡県立こころの医療センター
所在地	住所 〒420-0949 静岡市葵区与一 4 丁目 1-1 電話 054-271-1135 FAX 054-251-6584 E-mail kokoro-soumu@shizuoka-pho.jp
連携施設担当者氏名	村上 直人
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	八木 伸幸
連絡担当者連絡先	住所 〒420-0949 静岡市葵区与一 4 丁目 1-1 電話 054-271-1135 FAX 054-251-6584 E-mail kokoro-soumu@shizuoka-pho.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（静岡） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	公立森町病院
所在地	住所 〒437-0214 静岡県周智郡森町草ヶ谷 391-1 電話 0538-85-2181 FAX 0538-85-2510 E-mail :byouin@town.morimachi.shizuoka.jp
連携施設担当者氏名	中村昌樹
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	朝比奈直之
連絡担当者連絡先	住所 〒437-214 静岡県周智郡森町草ヶ谷 391-1 電話 : 0538-85-2181 / FAX : 0538-85-2510

	E-mail: byouin@town.shizuoka-mori.lg.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（中東遠） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	浜松市国民健康保険佐久間病院
所在地	住所 〒431-3908 浜松市天竜区佐久間町中部 18-5 電話 053-965-0054 FAX 053-965-0350 E-mail saegusa@sakumahp.com
連携施設担当者氏名	三枝智宏
連携施設担当者 部署・役職	病院長
事務担当者氏名	月花忠孝
連絡担当者連絡先	住所 〒431-3908 電話 053-965-0054 FAX 053-965-0350 E-mail gekka@sakumahp.com
連携施設の所在地	二次医療圏名（静岡県西部） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

※連携施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして列挙すること

総合診療専門研修 I

総合診療専門研修 I の施設一覧

都道府県コード	医療機関コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
22	6610135	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	浜松市国民健康保険佐久間病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
22	2302604	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	トータルファミリーケア北西医院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
22	0110249	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	西伊豆健育会病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
22	0110363	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	伊豆今井浜病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
22	0310062	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	伊豆赤十字病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携

総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	浜松市国民健康保険佐久間病院		
診療科名	(内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (60) 床 診療科病床数 (36) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(12) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	三枝智宏	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 ()			

学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 (予防接種を含む健診・予防事業への積極的参加)	
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（当直医による救急対応、在宅患者対応を 24 時間常に受けている。）	
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来担当枠を研修期間を通して行い、継続診療患者の入院時も担当する。）	
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（外来では救急から慢性疾患対応まで行っている。病棟機能は急性期と療養型を有し緩和ケアに至るまで、幅広い時相病相の患者に関わることができる。地域内でミニ健康講座を担当して予防活動に携わる。）	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（隣接する地域の診療所と月 1 回勉強会を開催している。また、保健、介護、福祉機関と月 2 回在宅ケアカンファレンスを行っている。）	
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（地域内で唯一の医療機関であり、孫の診察の付き添いに定期診察している祖父母が来院するなど。）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（地域内各地でミニ健康講座を行なって健康増進に努めている。）	
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（定期訪問診療は月間 25 件前後。急変時の再入院は月間 1 名程度、在宅看取りは年間 2-3 件。）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
■のべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()	
■のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 画像カンファレンス（毎日） 内視鏡カンファレンス（週 1 回） リハビリカンファレンス（週 1 回） 新入院患者カンファレンス（週 1 回） チャートラウンド（週 1 回） 抄読会（月 2 回） 在宅ケアカンファレンス（月 2 回） 他の施設で行う教育・研修機会 （天竜医師会 web 講演会への参加）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (5) プログラム名（静岡伊豆半島総合診療後期研修プログラム） プログラム名（焼津市立総合病院総合診療プログラム） プログラム名（聖隷浜松病院総合診療専門研修プログラム） プログラム名（聖隷三方原病院総合診療専門研修プログラム） プログラム名（静岡徳洲会病院総合診療専門研修プログラム）	

研修施設名	トータルファミリーケア北西医院
診療科名	(内科、小児科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床
総合診療専門研修 I における研修期間	(12) カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()

)		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	北西 史直	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (24 時間電話に出るよう対応している。在宅療養支援診療所として、緊急往診にも対応している。)			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (外来診療、訪問診療を 1 年通して定期的に行い、入院となった場合も基幹病院に訪問、退院前カンファレンスにも参加する。)			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 (外来には様々な病気の患者が通院している。訪問診療では生活期リハの患者やがんセンター等から看取りの依頼もあり、緩和ケアも経験できる。)			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (サービス担当者会議を積極的に呼びかけ院内で行っている。医師会の中で在宅医療・介護連携の中心的な役割をしている。静岡県在宅医療ネットワークシステムを使い ICT を利用した多職種連携を行っている)			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 (乳児健診から看取りまで行っている診療所で、一度に子育てと親の介護の相談などを受けることがある。診療録も家族単位で運用している。)			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容与方法 (地域医師会と協力し、主として在宅医療の啓発活動を行っている。)			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度 (在宅療養支援診療所として、月に 20 回程度の訪問診療、年間数回の夜間往診、数名の看取りも行っている。)			
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
■のべ外来患者数 400 名以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			
■のべ訪問診療数 20 件以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 (

研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 (毎日外来患者振り返り、週1回ガイドライン、コア領域、認知症のカンファレンス) 他の施設で行う教育・研修機会 (静岡がんセンターなどでのカンファレンス、地域医師会での研修、希望により他科診療所研修)	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (0)	
プログラム名 ()	()
プログラム名 ()	()
プログラム名 ()	()

研修施設名	西伊豆健育会病院		
診療科名	(内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (78) 床 診療科病床数 (60) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(12) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	仲田 和正	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	吉田 英人	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3	野々上 智	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 4	西村 光滋	指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件			
後期高齢者診療			
■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている			
学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ)			
■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する			
具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか ()			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない			
経験を補完できない理由 ()			
学童期以下の患者の診療を経験するための工夫			

()	
<p>■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（二次救急医療機関であり 24 時間体制で救急診療を行っている）</p>	
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来初診・再診診療の継続および退院後の在宅診療継続）</p>	
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（乳児から高齢者まで多様な年齢層に対して、急性期および慢性期の外来診療を実施すると共に健康教室を実施し患者の健康増進を図っている。また入院・訪問診療・在宅看取りを含む緩和ケアを提供できる診療体制が整っている。現在、地域包括ケア病棟を有し、在宅復帰を支援する仕組みがある。）</p>	
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（医療連携室において病病連携、病診連携をはじめ、介護・福祉機関とも勉強会等を通じて連携している。地域の急性期病院として早期在宅復帰（退院支援担当者の介入や定期カンファレンス、居住調査等）を目指し、切れ目のない多様なサービスを展開している）</p>	
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（地域のかかりつけ病院として機能しており、同一の家族の小児から高齢者が受診している）</p>	
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（健診の実施、保育園および小中学校での出張授業、広報誌の配布、巡回診療先での健康教室の実施、在宅拠点事業での講演会など）</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（医師 5 名により患者 1 名に対し月 2 回の訪問診療を実施している。患者の急変時は電話対応および住診、緩和ケアおよび看取りに随時対応している）</p>	
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>	
<p>■のべ外来患者数 400 名以上／月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()</p>	
<p>■のべ訪問診療数 20 件以上／月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()</p>	
<p>研修中に定期的に行う教育</p>	
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 (症例カンファレンス、新入院カンファレンス、プライマリケアレクチャーシリーズ、病診カンファレンス、外部講師を招いた医局勉強会) 他の施設で行う教育・研修機会 (ポートフォリオ勉強会)</p>	
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>	
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 (7) プログラム名 (西伊豆健育会病院総合診療医専門研修プログラム) プログラム名 (静岡伊豆半島総合診療後期研修プログラム) プログラム名 (国立病院機構東京医療センター総合診療プログラム) プログラム名 (藤田保健衛生大学 総合診療専門医プログラム) プログラム名 (武蔵村山病院 救急総合診療医育成プログラム) プログラム名 (松前塾 ールーラルジェネラリストへの道ー) プログラム名 (慶應義塾大学医学部総合診療医研修プログラム)</p>	

研修施設名	伊豆今井浜病院
診療科名	(内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (160) 床(含：回復期 50 床) 診療科病床数 (40) 床
総合診療専門研修 I における研修期間	(12) カ月

常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1	小田 和弘	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2	梅田 容弘	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3	吉村 誠	指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） <input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input checked="" type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ ） <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 （ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （小児科外来実習）			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（夜間は当直体制だが、毎日、断らない救急を心がけている）			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（入院患者さんの退院後も、外来 follow ができ、必要なら、在宅診療も可能）			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（H28 年 4 月から、回復期リハ 50 床が加わった。近隣介護施設の嘱託医も任せられており、介護保険の理解も深まる。がん患者は多く、緩和ケアの勉強は大いにできる。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（近隣開業医とは 21 年間のカンファランスの実績あり。介護福祉施設は 3 か所の嘱託医を引き受けている。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（当地で 23 年、継続医療の実績あり。親子 2-3 代にわたる受診は多い。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（地域での講演等で対応）			
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（巡回診療：月に一度づつ 2 か所の無医地区の巡回診療を行っている。 訪問診療：患者様の希望に応じて行っている。合計 3 名程度）			
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<input checked="" type="checkbox"/> のべ外来患者数 400 名以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 （ ）			
<input type="checkbox"/> のべ訪問診療数 20 件以上／月 <input checked="" type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			

()
<p>■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（夜間休日は当直体制だが、原則的に救急は断らない）</p>
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（退院後は外来通院、在宅診療で継続する）</p>
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（急性期病棟、療養病棟を有し、健診部門にも力を入れている）</p>
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（医療連携室において病病連携、病診連携をはじめ、介護・福祉機関とも連携している）</p>
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（地域のかかりつけ病院として機能しており、家族の小児から高齢者が受診している）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（健診の実施、保育園および小中学校の健診、広報誌の配布、健康教室の実施、在宅拠点事業での講演会など）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（伊豆市と在宅診療事業支援拠点病院の連携。具体的には訪問診療は約 60 人 120 件/月 往診は約 5 人 10 件/月程度を実施している。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400 名以上/月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()</p>
<p>■のべ訪問診療数 20 件以上/月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （入院カンファレンス、内視鏡カンファレンス、リハビリカンファレンス） 他の施設で行う教育・研修機会 （全国赤十字病院としての医療安全、院内感染対策講習会など）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 (1) プログラム名（伊豆半島総合診療後期研修プログラム）</p>

※研修施設が 2 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

総合診療専門研修Ⅱ

総合診療専門研修Ⅱの施設一覧

都道府県 コード	医療機関コー ド	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
22	4210771	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	静岡県立総合病院	<input checked="" type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
22	0410276	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	伊東市民病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
22	6310082	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	公立森町病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
				<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携

総合診療専門研修Ⅱを行う施設ごとの詳細

研修施設名	静岡県立総合病院		
診療科名	(救急科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (712) 床 診療科病床数 (10) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい (同一施設で前半と後半の2+4か月または3+3か月等に分割。前半は総合診療研修全体やポートフォリオ作成について理解するとともに、領域横断的・包括的アプローチの素養を身につけること、後半はより複雑・困難な症例を経験するとともに教育・研究・組織マネジメント等にも取り組むことを想定。ただし専攻医の希望や受け入れ側の事情等により6か月連続した研修となることも有り得る。)		
常勤指導医氏名1	牧 信行	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名2	三宅 章公	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
■高齢者(特に虚弱)ケア 具体的な体制と方略(入院患者のうち月間12名程度が70歳以上であり、敗血症、肺炎、熱中症、低体温などの診療する過程で背景にあるADL、心理・社会的因子の評価とマネジメントの必要性を学ぶ。)			
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略(臓器別に特化せず診療に当たる体制を確立しており、複数領域疾患の併発、あるいは背景因子に健康問題を抱える患者の積極的な診療と評価を行い、必要に応じて専門家と連携しつつ対応する。)			
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略(侵襲的な検査・処置・治療、あるいは評価・管理に専門的経験を要する症例については、院内			

紹介を通じて各科専門医に依頼する体制が整備されている。一方他科患者の急変等については当科でも対応する。）	
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応	具体的な体制と方略（心理・社会・倫理的に考慮すべき背景については、看護師をはじめとする他職種と連携しながら評価する。対応については心理面は近隣精神科病院（県立こころの医療センター）、倫理面は臨床倫理委員会等と適宜連携する。）
■癌・非癌患者の緩和ケア	具体的な体制と方略（当科入院患者の中には ADL の低下した高齢者、あるいは心肺停止後等の回復困難な症例が少なく、そうした症例を通じて緩和ケアを経験する。癌患者の緩和ケアについては、救急外来で初療を行った症例について当該科および緩和ケア科との共同で症例を経験することを検討する。）
■退院支援と地域連携機能の提供	具体的な体制と方略（病状の進行や ADL, 認知機能, 嚥下機能の低下等により退院困難となる症例は少なく、その場合の対応は地域医療連携室と連携することが基本となる。ただし医学的評価や患者・家族とのコミュニケーションには医師の存在が不可欠であり、果たすべき役割について症例を通じて学んでいく。）
■在宅患者の入院時対応	具体的な体制（入院患者のうち、月間 8 名程度が在宅または施設療養中からの入院である。こうした症例の対応には在宅・施設主治医との適切な情報共有が必要であることと、自分がその立場になった時に果たすべき役割について症例を通じ学んでいく。）
外来診療： 以下の診療全てを行っていること	
■救急外来及び初診外来	具体的な体制と方略（日中の外来は救急車の対応を中心とした救急外来と、紹介患者や walk in を中心とした初診外来を交代で行う。）
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者	具体的な体制と方略（救急外来では当然のことながら、あらゆる臓器疾患の救急患者が受診される。発熱や意識障害等の鑑別が多岐にわたる徴候では幅広い疾患の知識も要求され、症例を通じて学んでいく。）
■よくある症候と疾患	具体的な体制と方略（救急の特徴として、胸痛やけいれん等の緊急性の高い症候についても他科と共同で初療にあたる。緊急度の低い症候については walk in 外来を通じて学んでいく。）
■臨床推論・EBM	具体的な体制と方略（院内 LAN を通じて PubMed、医中誌といった検索サイトや、UpToDate などの二次資料をいつでも利用できる体制が整備されている。）
■複数の健康問題への包括的なケア	具体的な体制と方略（時に、不定愁訴とされてしまいがちな複数の健康問題を有する患者が受診することがある。そうした場合の包括的アプローチ、背景因子の評価法を含めたマネジメントについて学ぶ。）
■診断困難患者への対応	具体的な体制と方略（診断困難事例では緊急度の高い疾患を鑑別する視点、何が健康問題かを整理する視点、プロブレムと鑑別疾患を結びつける知識など、要求される事項が多い。こうした事例には複数医師によるチーム医療、必要に応じて他科と連携する体制をとっているほか、症例検討会等を通じて具体的なノウハウを学んでいく。）
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
□当該診療科におけるのべ外来患者数 200 名以上／月	■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（他領域研修中も週 1 回兼任研修として総合外来を担当するほか、当直時（月 2～3 回程度）も walk in を含めた時間外外来を担当する。）
■当該診療科における入院患者総数 20 件以上／月	□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （朝カンファレンス（毎日）、clinical jazz/CbD/SEA（2 週に 1 回）、mini CEX 振り返り（月 1 回）、360 度評価フィードバック/journal club（月 1 回）、基礎臨床講座（月 1 回）、ファイザー若手医師セミナー（月 1 回）等） 他の施設で行う教育・研修機会 （静岡市内のものとしては慢性期医療を考える会（年 2 回）や医師会主催の各領域勉強会・講演会が適宜開催されている。このほか日本プライマリ・ケア連合学会等の学術集会・研修セミナー等に積極的に参加する。）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (2) プログラム名（静岡伊豆半島総合診療後期研修プログラム） プログラム名（西伊豆健育会病院総合診療医専門研修プログラム）	

研修施設名	伊東市民病院
-------	--------

診療科名	(総合内科・総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (250) 床 診療科病床数 (100) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	荒川 洋一	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	山田 哲也	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3	川合 耕治	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 4	築地 治久	指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (早期離床に向けてリハビリを行い、NST チーム、褥瘡防止チームが回診を行っている)			
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (他職種との合同カンファを定期的に行い、常日頃から多角的な視点で診療を行っている)			
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (がんセンターとの協力や、所記念病院、循環器専門病院などとも連携し的確な診療に心がけている)			
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (心療内科・精神科医師との定期的カンファを他職種で行い、情報共有と治療方針の確認を行う)			
<input checked="" type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (WHO の疼痛コントロールを基本に、個々の患者さんの状態に合わせた心と体のケアを行う)			
<input checked="" type="checkbox"/> 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (相談室のソーシャルワーカーと密に連絡をとり、地域連携協力機関と協力しながら退院支援をおこなう)			
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (ケアマネージャーと連絡しながら、必要時の入院と早期退院ができるよう支援する)			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること			
<input checked="" type="checkbox"/> 救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 (毎週半日の診療枠を 2 個確保し、定期的な外来診療を担当する)			
<input checked="" type="checkbox"/> 臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 (主に総合診療科外来で初診患者の診療を週 2 日以担当する)			
<input checked="" type="checkbox"/> よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 (内科研修中にほとんどのよくある症候と疾患を経験できるが、内科以外の診療科でも外来研修を追加し、もれなく経験できるように指導する)			
<input checked="" type="checkbox"/> 臨床推論・EBM 具体的な体制と方略 (指導医が継続的にレクチャーを月 2 回行い、TV 会議も利用しながら EBM の方略を身につける)			
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略 (ケースカンファを内科研修医と共にし、他職種との合同カンファも通じて経験を重ねる)			

<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（指導医と共に診療方針を確認し、必要時には3次医療機関の専門医と相談し、患者と家族にとって最善の診療を行えるよう努める）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 月：症例カンファ、火：抄読会、水：症例振り返り、木：入院患者カンファ、金：ポートフォリオ作成指導） 他の施設で行う教育・研修機会 （ 火：コアレクチャー（TV会議）、水：J-FD 指導医のための教育レクチャー ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 (3) プログラム名（静岡伊豆半島総合診療後期研修プログラム） プログラム名（JADECOM(地域医療のｽｽﾞﾐ) 台東区立台東病院） プログラム名（JADECOM(地域医療のｽｽﾞﾐ) 東京北医療センター）</p>

研修施設名	公立森町病院		
診療科名	（ 内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数（131）床 診療科病床数（67）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	中村 昌樹	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名2	岩本 達治	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3	廣岡 正史	指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<p>研修の内容</p> <p>■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</p> <p>■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する</p>			
<p>施設要件</p> <p>■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する</p> <p>■救急医療を提供している</p>			
<p>病棟診療：以下の全てを行っていること</p> <p>■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（入院時総合評価を行うことで、多職種が介入すべき症例をピックアップしている。急性期病棟93床と回復期リハビリテーション病棟38床を有し、また急性期病棟の内48床を地域包括ケア病棟として運用している。急性期医療の後、生活復帰支援のために積極的リハビリテーションの適応の患者は回復期リハビリテーション</p>			

<p>病棟で、そうでない患者に対しては地域包括ケア病棟にて患者の病態に合わせたポイント・オブ・ケアを提供している。また病棟に歯科衛生士を配置し口腔ケアにも力を入れている。さらに NST、褥瘡対応チームによる褥瘡回診など多職種によるチーム医療を提供している。）</p>
<p>■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（当院内科常勤医は臓器別、疾患別によらず日常的な疾患の対応を総合的に行っている。また必要に応じて近隣医療機関や、非常勤の専門外来医師との連携体制も確立されている。週1回の病棟カンファレンスでは医師、看護師の他、理学療法士、薬剤師、栄養士も参加し、週1回の早期内科カンファレンスでチーム内の情報共有を図っている。また毎週行われる診療部会議を通じて、内科以外にも外科、整形外科、小児科、歯科口腔外科の医師がチームとして診療に関わる体制を取っている。）</p>
<p>■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（隣接市の磐田市立総合病院と業務提携を結び、当院で対応困難な患者を磐田市立総合病院で受け入れている。また眼科、耳鼻科、泌尿器科、皮膚科、心療内科、膠原病内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、内分泌内科、肝臓内科、痛みの外来などは非常勤医の専門外来にて対応する体制をとっている。月1回行う放射線カンファレンスで放射線科専門医を交えた画像診断カンファレンスを行っている。またふじのくにパルチャルメガホスピタルシステム（以下「ふじのくにねっと」）による電子カルテの共有を行うことで、他院専門医との連携を図っている。）</p>
<p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（心理的な問題については月2回の心療内科専門外来との連携で対応、社会的問題については常勤のMSW2名が中心となって対応している。インシデントや患者からのクレーム、トラブルなどが生じた場合の対応はマニュアル化されており、主に医療安全管理室が対応している。倫理的な問題、あるいは複雑事例が生じた場合は、医療安全委員会、必要に応じて毎週行われる倫理委員会も兼ねた幹部会で検討し対応している。）</p>
<p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（薬剤師に緩和ケア担当者を選任し、医師とのカンファレンスを通じて緩和ケアへの対応を行っている。）</p>
<p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（入院時に病棟看護師が入院時総合評価を行い、退院支援の必要性がある患者を拾い上げ、主治医が確認する。入院中は病棟担当看護師、地域医療連携室室長、MSWなどによる退院支援カンファレンスを毎週開催、退院前に主治医と関係職種が一堂に会する面談を開催。主治医は病状から退院許可を出す実際の退院日の設定は退院支援チームに任せる。特養、老健、グループホーム、療養型病院とも連携体制を構築しており、訪問診療や訪問看護が必要な場合は退院時の病状面談に在宅医療コーディネーターや訪問看護師も同席する。）</p>
<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（訪問看護が介入している場合は主に訪問看護師が、訪問介護が介入していない場合は、当院の在宅医療支援室に配置した在宅医療コーディネーターが24時間対応を行っており、在宅主治医に連絡し必要に応じて救急外来を受診するなどいつでも入院できる体制を整えている。入院する病棟は病状により急性期病棟か地域包括ケア病棟を選択している。在宅で介護する家族の負担軽減のため、定期的な胃瘻交換のための入院や検査入院などにも対応している。「静岡県版在宅医療支援ネットワークワークシステム」を活用し、在宅患者の情報を多職種で共有している。）</p>
<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること</p> <p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（当院では24時間365日、前医により診断がついて当院で対応できない循環器疾患や脳外科疾患など以外は、救急車であれwalk inの患者であれ全ての救急外来患者および初診外来患者を受け入れている。救急に関しては磐田市立総合病院と中東遠総合医療センターの2つの救急センターがバックアップする連携体制を採っているが、当院で当日他院に転院搬送が必要な症例は救急患者全体の0.8%である。中東遠2次医療圏内の公立病院すべてで「ふじのくにねっと」による電子カルテ情報の共有も時間外でも可能となっているため、救急医療の現場でも他院の専門医にコンサルトできるような仕組みになっている。）</p>
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（内科初診では臓器別に関わらない全ての内科疾患の初期対応に対応しており、救急当直では全科当直として各科の待機医と連携しながら、外傷や小児疾患など幅広い疾患に対応している。）</p>
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（内科外来では高血圧、糖尿病、高脂血症、慢性呼吸器疾患、認知症など頻度の多い日常的な疾患に対応することが多く、予防に力を入れている。救急外来ではすべての症候、疾患に対応し、必要に応じ他院に転院搬送している。）</p>
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（診療ガイドラインの活用、院内で医中誌、UpToDateを利用できるようにしている。）</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（年に3回近隣の医療、介護関係者、行政、民生委員や住民ボランティアなども交えた多職種合同カンファレンスを行っており地域で一体となった取り組みを行っている。介護施設とも連携しており町内の特養、グループホームにも定期的に往診している。）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（大学の専門医を交えた放射線カンファレンスやふじのくにねっとの活用による他院専門医との連携、専門外来との連携など比較的専門医に相談しやすい体制が構築されている。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上/月</p>

領域別研修：内科			
研修施設名	公立森町病院	都道府県コード 22	医療機関コード 6310082
領域別研修（内科）における研修期間		(6) カ月	
指導医氏名	岩本達治		
有する認定医・専門医資格 <small>※内科に関するもの</small>	認定内科医、総合内科専門医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
施設要件			
■内科専門研修プログラムに参加している □基幹施設 □連携施設 ■特別連携施設			
■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（)			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載するきこと			
本プログラム以外の参加プログラム数 (1)			
プログラム名（浜松医科大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム）			
プログラム名（)			
プログラム名（)			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域別研修：小児科			
研修施設名	静岡県立総合病院	都道府県コード 22	医療機関コード 4210771
領域別研修（小児科）における研修期間		(3) カ月	
指導医氏名	原崎正人	有する専門医資格（小児科専門医） <small>※小児科に関するもの</small>	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
施設要件			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■小児科常勤医がいる。(5) 名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（)			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 (2)			
プログラム名（静岡伊豆半島総合診療後期研修プログラム）			
プログラム名（西伊豆健育会病院総合診療医専門研修プログラム）			

領域別研修：小児科			
研修施設名	伊東市民病院	都道府県コード 22	医療機関コード 0410276
領域別研修（小児科）における研修期間		(3) カ月	

指導医氏名	宇津木 忠仁	有する専門医資格（小児科専門医） ※小児科に関するもの
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））		
研修の内容		
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する		
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する		
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ		
施設要件		
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる		
■小児科常勤医がいる。（ 2 ）名		
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））		
□当該診療科におけるのべ外来患者数 400名以上/月		
■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している		
具体的な体制と方略（週1回以上、伊東市内にある「むらかみ小児科クリニック」での外来を経験させる）		
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること		
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 1 ）		
プログラム名（静岡伊豆半島総合診療後期研修プログラム）		

※研修施設が2箇所にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

※小児科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件（2ページ「4概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照）を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。（A4で1枚程度、書式自由）文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

領域別研修：救急科			
研修施設名	静岡県立総合病院	都道府県コード 22	医療機関コード 4210771
指導医氏名	登坂直規	有する専門医資格（救急科専門医）	専従する部署（救命救急科）
■研修期間 （3）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000件以上/年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 （2）			
プログラム名（静岡伊豆半島総合診療後期研修プログラム）			
プログラム名（西伊豆健育会病院総合診療医専門研修プログラム）			

領域別研修：救急科			
研修施設名	伊東市民病院	都道府県コード	医療機関コード
指導医氏名	城野 晃一	有する専門医資格（ 救急科専門医 ） 外科専門医	専従する部署（救急科）
■研修期間 （ 3 ）カ月			

■研修期間 (2) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (産婦人科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (産婦人) 科常勤医がいる。 (9) 名			

領域別研修：皮膚科			
研修施設名	静岡県立総合病院	都道府県コード 22	医療機関コード 4210771
指導医氏名	八木 宏明	有する専門医資格 (皮膚科専門医)	専従する部署 (皮膚科)
■研修期間 (2) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (皮膚科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (皮膚) 科常勤医がいる。 (4) 名			

領域別研修：泌尿器科			
研修施設名	静岡県立総合病院	都道府県コード 22	医療機関コード 4210771
指導医氏名	吉村 耕治	有する専門医資格 (泌尿器専門医, 癌治療認定医,)	専従する部署 (泌尿器科)
■研修期間 (2) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (泌尿器科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (泌尿器) 科常勤医がいる。 (6) 名			

領域別研修：眼科			
研修施設名	静岡県立総合病院	都道府県コード 22	医療機関コード 4210771
指導医氏名	渡部 大介	有する専門医資格 (眼科専門医)	専従する部署 (眼科)
■研修期間 (2) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (眼科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (眼) 科常勤医がいる。 (3) 名			

領域別研修：耳鼻咽喉科			
研修施設名	静岡県立総合病院	都道府県コード 22	医療機関コード 4210771
指導医氏名	高木 明	有する専門医資格 (気管食道科専門医)	専従する部署 (頭頸部・耳鼻咽喉科)
■研修期間 (2) カ月			

要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（耳鼻咽喉科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（耳鼻咽喉）科常勤医がいる。（7）名			

領域別研修：放射線科			
研修施設名	静岡県立総合病院	都道府県コード 22	医療機関コード 4210771
指導医氏名	中島 信明	有する専門医資格（放射線専門医、放射線腫瘍認定医）	専従する部署（放射線科）
■研修期間（2）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（放射線科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（放射線）科常勤医がいる。（7）名			

領域別研修：緩和医療科			
研修施設名	静岡県立総合病院	都道府県コード 22	医療機関コード 4210771
指導医氏名	矢崎 敏之	有する専門医資格（緩和医療暫定指導医）	専従する部署（緩和医療科）
■研修期間（2）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（緩和医療科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（緩和医療）科常勤医がいる。（1）名			

領域別研修： 外科			
研修施設名	伊東市民病院	都道府県コード 22	医療機関コード 0410276
指導医氏名	神谷 紀之	有する専門医資格（ 外科専門医 ）	専従する部署（ 外科 ）
■研修期間（ 3 ）カ月（研修医の選択による）			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（外科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（外科）常勤医がいる。（ 2 ）名			

領域別研修：整形外科			
研修施設名	伊東市民病院	都道府県コード 22	医療機関コード 0410276
指導医氏名	渡邊 安里	有する専門医資格（整形外科認定医）	専従する部署（整形外科）

■研修期間 (1～3)カ月
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))
研修の内容 ■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する
施設要件 (下記のいずれかを満たす) ■ (整形外科) 領域における基本能力(診断学、治療学、手技等)が修得できる ■ (整形外科) 科常勤医がいる。(3)名

領域別研修：産婦人科			
研修施設名	伊東市民病院	都道府県コード 22	医療機関コード 0410276
指導医氏名	荒堀 憲二	有する専門医資格(産婦人科専門医)	専従する部署(産婦人科)
■研修期間 (1～3)カ月			
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))			
研修の内容 ■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす) ■ (産婦人科) 領域における基本能力(診断学、治療学、手技等)が修得できる ■ (産婦人科) 科常勤医がいる。(2)名			

領域別研修：皮膚科			
研修施設名	伊東市民病院	都道府県コード 22	医療機関コード 0410276
指導医氏名	竹下 芳裕	有する専門医資格(皮膚科専門医)	専従する部署(皮膚科)
■研修期間 (1～3)カ月			
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))			
研修の内容 ■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす) ■ (皮膚科) 領域における基本能力(診断学、治療学、手技等)が修得できる ■ (皮膚科) 科常勤医がいる。(1)名			

領域別研修：眼科			
研修施設名	伊東市民病院	都道府県コード 22	医療機関コード 0410276
指導医氏名	北村 昌弥	有する専門医資格(眼科専門医)	専従する部署(眼科)
■研修期間 (1～3)カ月			
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))			
研修の内容 ■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす) ■ (眼科) 領域における基本能力(診断学、治療学、手技等)が修得できる ■ (眼) 科常勤医がいる。(1)名			

領域別研修：耳鼻咽喉科			
研修施設名	伊東市民病院	都道府県コード 22	医療機関コード 0410276
指導医氏名	松尾 博道	有する専門医資格(耳鼻咽喉科専門医)	専従する部署(耳鼻咽喉科)
■研修期間 (1～3)カ月			

要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（耳鼻咽喉科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（耳鼻咽喉）科常勤医がいる。（ 2 ）名			

領域別研修：リハビリテーション科			
研修施設名	伊東市民病院	都道府県コード 22	医療機関コード 0410276
指導医氏名	渡邊 安里	有する専門医資格（リハビリ認定医）	専従する部署（整形外科）
■研修期間（ 1 ～ 3 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（リハビリテーション）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（リハビリテーション科）科常勤医がいる。（ 1 ）名			

領域別研修：精神科			
研修施設名	静岡県立こころの医療センター	都道府県コード 22	医療機関コード 4210763
指導医氏名	村上直人	有する専門医資格（精神保健指定医、精神科専門医）	専従する部署（精神科）
■研修期間（2）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（精神科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（精神）科常勤医がいる。（ 16 ）名			

※その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

その他の研修施設（例：臨床疫学などの社会医学の研修や保健・介護・福祉関連の施設等での研修）

領域・分野：			
研修施設名			
指導にあたる医師名		有する資格（ ）	専従する部署（ ）
□研修期間（ ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
□ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している			
□ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性： ）			
指導体制			
□ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる			
□ 研修終了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること